

技術士資格と社会について

技術士には、科学技術に関する技術的に専門知識と高等の応用能力及び豊富な実務経験を有し、公益を確保するため、高い技術者倫理を備えた優れた技術者と言えます。また、その高度な技術を資格として、国に保証されたものであります。

技術試験は、その難易度から 理系最高難度といわれています。ほかの試験と違うところは、知識だけでなく問題抽出能力や解決能力を論文作成を通して求められているところにあります。

したがって、文章によって技術を表現できることが必要です。

しかし、その難易度に対して有名ではなくて知らない人も多いです。このため、一部の人や企業を除いて全般的な需要は高いとは言えません。

一部の人や企業、特に、建設業においては求められる資格の中において最上級と位置づけられています。建設業の中でも建設コンサルタント会社においては、技術士の資格は必須であり、技術士の資格がないと上の方に行けない仕組みになっている会社がほとんどです。

これは技術士が、役所業務の管理技術者及び照査技術者になっているからです。技術士の指導のもとほかの技術者は、調査や測量をおこない計画検討を行います。したがって報告書における結論は技術士の考えが大きく反映されることが多いです。

また建設コンサルタント会社以外の建設会社では、現場代理人として監理技術者証を持つことが多いですが、一級施工管理技士以外では技術士でないと Check がつかないことが多いです。特に機械器具設置については、経験以外において資格では技術士機械部門でないとは Check がつかないことになっており、非常に付加価値が高いといえます。

転職においては、技術士資格を持っていると 40 歳以上でも転職が容易です。履歴書において経験技術の羅列が見られますがそれが本当であるかどうかを知るのは本人だけです。しかし、技術士を持っていると国家がその技術を評価していることの証左になるので、自分で証明しなくとも効果が証明してくれます。このため、非常に付加価値の高いものとは言えます。

独立して仕事をすることができる人においては、技術で仕事をする場合は技術士がその技術を自動的に証明してくれるので、営業面において有利と言えます。

以上より、技術士資格は会社勤め及び独立して仕事をしている場合においても非常に有利とは言えます。定年など退職以降も技術を持って仕事ができるため、老後対策という点でも有利と言えます。

ちなみに一級建築士と技術士はどちらが難しいかという問題がよく言われていますが、前者は免許みたいなもので車の免許かないと車が運転で決めるのと同じです。したがってどちらが難しいという問題は無意味とは言えます。技術士は持っていないと仕事ができないという資格ではありません。名称を独占の資格と言えます。基本的には、技術士の資格を持っていないと技術士名乗ることはできません。一級施工管理技士であって一級施工管理技術士ではありません。建設コンサルタント会社は例外で役所工事などの技術士が特に必要とされる分野です。技術士特に建設部門を持っていないと仕事はできないので、そういう点では業務独占と言えます。

皆さんも技術士の資格を取ってみてはいかがですか。